

日本学術会議
自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会
(第 25 期 第 8 回) 議事要旨

1. 日 時 令和 4 年 12 月 3 日(土) 13 : 00~15 : 30
2. 会 場 オンライン開催 (Zoom)
3. 出 席 永井、中野、鎌田、唐沢、宮崎、藤井、渋谷、水野、西條、太田、須田、大倉、浅間、
遠藤、尾崎、柴山 (敬称略)
4. 資 料
資料 1 : 第 7 回議事要旨 (案)
資料 2 : 社会デザインに向けた産官学連携と安全対策について
資料 3 : 今後の日本のモビリティを考える

議 題

1) 前回議事要旨確認

確認した。

2) 話題提供 : 社会デザインに向けた産官学連携と安全対策について

須田委員より、東京大学の生産技術研究所が中心となって進めている事例 (ITS センター、モビリティイノベーション連携研究機構、柏 ITS 推進協議会、モビリティイノベーションアライアンス等) について紹介された。また、国土交通省の ASV プロジェクトや交通政策審議会技術安全ワーキング等での安全技術に関する取組も説明がなされた。

統計的に事故が減少すれば ASV の導入は推進されるべきではないか、ASV が自動運転推進の立場に変わった理由、自動車における遠隔監視・操縦の可能性、オーナーカーとサービスカーの自動運転の違い、民間資金の活用方法等について、意見交換がなされた。

3) 話題提供 : 今後の日本のモビリティを考える (鎌田委員)

鎌田委員より、自動運転や MaaS 等の新技術の社会実装を目指すに当たり、日本の地域の状況や高齢者のフレイル化、運転免許制度、さらには実証から実装になかなか進まない現状等について説明がなされた。

ハンディキャップを持つ人への対応、自家用有償輸送、コンパクトシティが失敗した理由、モビリティサービスの形体と地域類型化について質問があった。

4) 見解案の提出及び提言に向けて

永井委員長から、見解の提出状況について説明があった。さらに、今後は技術の動向や社会デザインも含めて、提言としてまとめる予定で、企画分科会 (12 月 10 日 10-12 時開催予定) で詳細を煮詰めて

いく。今後の予定について永井委員長から説明があり、提言の発出に向けた対応、学術フォーラム実施に向けた対応について、菱田副会長と相談の上、今期内に進めたい旨提案され、了承された。

提言の内容については、中枢神経系の疾患を持つ患者、地方、農村を想定しながら、ユースケース等も考えて欲しいという要望があった。

5) その他

次回は、2－3月に行う予定で日程調整を進める。